

愛媛学 第3回

※出席確認のため、学生証を用意しておいてください

配付資料 2点

1. レジюме
2. ワークシート



愛媛学 第3回

地域課題の把握と分析、 解決の方向性



今回の内容・方法

1. 前回のふりかえり
2. 地域課題の把握と分析、解決の方向性
愛媛大学 社会連携推進機構

教授 前田 眞

- 「地域の課題把握」
: ビデオ視聴、個人ワーク、ペアワーク、共有
- 「地域の課題分析とその解決」
: ビデオ視聴、個人ワーク、ペアワーク、共有



ワークシートの記述から、質問について

- 会議をしたくない、内気な人が多い場合は
→なぜ会議をするのか
声をあげやすい環境をつくっていくことで対応 する
しかない
- 新しい公共と昔からの町内会のシステムは何が違う
のか
→昔のシステムでうまくいっているところはいいが、
そうでないところが多い。社会背景が変わっている
のに、従来型の考え方でずんずんしているなど、今の
時代にあっていない。
- このような手法は、地域や地元で使えるのか
→一人ひとりの意見を大事にしていくためには、必要
だと思っている。今までのやり方でうまくいっていな
いとしたら、勇気を持って変えていくべき。



- これからの地域社会のあり方がイメージしにくい
 - 住民の考え方が多様化している時代、自分の生き方を
選択できる時代になったと考えている。そんな時代に
あった、地域社会は周りと同じでないといけないという
ことではなくて、自分らしさが発揮しやすい社会のあり
方として、誰かがやってくれるではなくて、自分が関与
しながら作っていくような社会を作っていく方がいい
のではという提案です。
- こういう会議の手法は、課題解決につながらない
 - 会議の場に、幅広い住民の方々の参加を保障する必
要があることと、そこで議論されていることを情報公開
することによって、多様な参加の道があること、それら
を使うことによって、課題解決につながると思っている。

- 調整型リーダーのイメージは
 - 調整型のリーダーとは、多様な関係権利者の意見を聞きながら、合意形成に持ち込むことができるマルチステークホルダープロセスを活用できるリーダーのこと
- 愛媛学について、愛媛のことを学ぶ学問ではないか
 - 地域の課題について説明できることという目標があります。このための方法論について学んでほしいとの考え方です。

- 小・中・高での会議でやるべき
 - 幅広い参加や情報公開をしっかりとっていく会議のモチ方は、地域でこそやるべきだと思う。
- 反応する前に考える(会議のルール)
 - 地域においては、建設的な意見であればいいのですが、知り合いが多いこともあり、発言者に対してすぐ否定的な意見を出すケースが多い。そういうことはやめましょうという意味でした。
- 現状維持でいいと思っている人が多い
 - 今はいいかもしれないが、将来のことを考えるとどうですか？と投げかけるようにしています。

地域の課題分析とその解決

講師：社会連携推進機構 前田眞先生

- ビデオ視聴
- 個人ワーク 5分
 - 教室に配付資料等の残部、ゴミなどが多く残されている。この問題を自分たちで解決していく企画についてまとめなさい
- ペアワーク 10分
 - 共通の意見は青、自分独自の意見は赤で囲む
- 共有

